

〔研究ノート〕

大学生のキャリア観の傾向に関する一考察

濱野和人

1. はじめに

近年、大学においてもキャリア教育の重要性が叫ばれるようになって久しい。キャリア教育といってもその訳や解釈はさまざまであるが、一般的には1999（平成11）年の中央教育審議会答申⁽¹⁾におけるキャリア教育の定義である「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」から逸脱してはいない。

答申では、高等教育の役割について、「学部段階においては、初等中等教育における『自ら学び、自ら考える力』の育成を基礎に『課題探求能力の育成』を重視するとともに、専門的素養のある人材として活躍できる基礎的能力等を培うこと」を基本とするよう記している。また、このような能力を養うために必要であるとされる具体的な教育内容として、最初の項目に、「主体的に変化に対応し、自ら将来の課題を探求し、その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことのできる力」（課題探求能力）の育成に重点」を置くような教育を行うべきであると示している⁽²⁾。

しかしながら、「主体的に進路を選択する能力・態度」を育てるために初等中等教育から継続して行う「自ら学び、自ら考える力」の育成も高等教育（学部段階）における「課題探究能力」の育成も、教育者からの一方的な指導だけでは成り立たず、必ず学習者自身にとって「何が大事で」「何がしくて」「そのために何をするのか」という価値観（以下、キャリア観）が反映される。

人生は、行動、判断、選択の連続であり、各々の場面においてキャリア観の影響力は大きい。キャリア観が大きくぶれると、迷いや悩みが生じたり、日常の活動（授業への姿勢、キャンパスライフ、アルバイト、私生活など）に対する行動力（スピード）の低下へと繋がる可能性も大きい。この可能性を減らすためには、学習者は自分自身が「何が大事で」「何がしくて」「そのために何をするのか」といった考えをしっかりと持つことが大切である。ただし、そもそもキャリア観は、その人が持っている価値観のため、大小あっても、正解・不正解は無い。故に100人いれば100通りのキャリア観が存在する。

本稿では、「大学生がどのようなキャリア観を持っているのか」、また「キャリア観の形成にどのような事柄が影響を与えているのか」について調査を行い、その調査結果を基にキーワード分析を行い、キャリア観の傾向について考察する。

(1) 中央教育審議会（1999）「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）」「第6章 学校教育と職業生活との接続」

(2) *ibid.* 「第3章 高等教育の役割」

2. 調査概要

本調査は、千葉商科大学商経学部2012年度秋学期に開講した筆者担当科目「情報処理」において実施した学生へのアンケート調査である。

調査期間・調査対象・回答者数など、調査の実施概要は以下の通りである。

調査期間：2012年9月28日、10月2日、10月3日

調査対象：千葉商科大学商経学部「情報処理」（3クラス）履修者1年生～4年生

回答者数：計90名

（内訳）性別：男性75名、女性11名、その他（未記入）4名

学年：1年65名、2年16名、3年7名、4年2名

学科：商学科24名、経済学科41名、経営学科25名

調査方法：「自分軸」発見シート⁽³⁾による質問紙式調査法（自由記述方式）

調査場所：筆者担当科目「情報処理」の教室にて回答を要請

調査項目：

設問1 「あなたが仕事をする目的は何ですか」

回答1 「私が仕事をするのは、_____です」

設問2 「あなたが仕事をするうえでの信条、ポリシーは何ですか」

回答2 「私のポリシーは、_____です」

設問3 「あなたが最も信頼している人は誰ですか」

回答3 「私が最も信頼している人は、_____です」

設問4 「あなたの一番大切なものは何ですか」

回答4 「私の一番大切なものは、_____です」

設問5 「あなたの夢は何ですか」

回答5 「私の夢は、_____です」

（※回答は、設問1～設問5の空欄（下線部）箇所への記述による）

3. 大学生のキャリア観に関する調査結果と分析

3.1. 調査結果1：「仕事をする目的」に対する意識の傾向

設問1では、卒業後のキャリアの大半を占めるビジネスキャリアについて、「あなたが仕事をする目的は何ですか」という質問を行った。回答結果は表1の通りである。

設問1の回答をある程度明確に分かり易く分類するため、これらの回答に対してキーワード分析を行った。分類方法は、使用頻度の高い語彙をキーワードとして抽出し、同じ文意を持つキーワードをグループ化した。表2は設問1の回答に対するキーワード分析の結果、図1は表2のキーワードの使用頻度の割合をグラフ化したものである。

キーワードで一番多かったのは「お金」⁽⁴⁾ (33人)、次いで「生活充実／安定生活」(23人)、

(3) ネクストエンジン合同会社 (2012) に掲載されている「自分軸」発見シートを元に調査を行った。

(4) 「お金を得ることは目的ではなく手段のひとつ」（手段の目的化）と言われているが、この調査はあくまで

表1 設問1「あなたが仕事をする目的は何ですか」に対する回答

やりがい（教え甲斐）があるため	達成感があるから
家族のため	自分の生活のため
家族を養うため	未来のため
生活のため	お金を稼ぐため
社会、家族のため	生きるため
お金を稼ぐため	お金を得るため
自立するため	お金を稼ぎ豊かに暮らすため
お金を稼いで生きていくため	お金を稼ぎより豊かな生活をするため
安定した生活がしたいから	金を稼ぐため
独立と親孝行のため	良い暮らしがしたいから
人の役に立つため	自分を磨くため
お金を得るため	将来に向けての貯金
遊ぶため	自分のため、世の中のため
お金のため	生きるため
金を稼ぐため	人生を全うする為の布石を作るため
お金を稼ぐため	社会の中で生きるため
生きるため	お金のため
生活していくため	お金がほしいため
金のため	お金を稼ぐため
生活の充実のため	生活するため
生活のため	知識を得るため
生活の安定のため	お金のため
生活するため	自分の好きな物を買うため
生活していくため	自分が生活していくため
お金を得るため	楽しく生活するため
生活をするため	自分の未来のため
生きていくため	家族を養うため
生きるため	遊ぶため
自分の生活のため	生きていくため
生活費のため	お金を稼ぐため
お金のため	自分のため
お金を貯めるため	やりたいことを見つけた時、それに使うため
生活費を稼ぐため	安定した収入で安定した生活をするため
楽しく生活するため	遊ぶため
幸せになるため	お金のため
お金を稼ぎ幸せになるため	お金のため
生活するため	ミュージシャンになるため
生きるため	自分の生活を送るため
お金がほしいから	将来のため
家庭のため	生きるため
お金をもらうため	お金のため
安定した暮らしのため	お金のため
お金のため	人生を楽しく過ごすため
自分の生活を豊かにするため	お金を貯めるため
多くの笑顔を見るため	自分の将来のため

学生たちの率直な考えを把握するためのものであるため、深く言及せずに「お金」も一回答としてカウントしている。

3番目に「生きる」(9人)である。以下、「家族／家庭」「将来／未来／夢」が6人ずつ、「社会／他人」「自分」(4人ずつ)、「遊ぶ」(3人)、「自立／独立」「やりがい／達成度」「幸せ／楽しく」(2人ずつ)、「知識」(1人)の順となった。

表2 設問1の回答におけるキーワード分類

キーワード分類	人数
お金	33
生活充実／安定生活	23
生きる	9
家庭／家庭	6
将来／未来／夢	6
社会／他人	4
自分	4
遊ぶ	3
自立／独立	2
やりがい／達成感	2
幸せ／楽しく	2
知識	1

図1 設問1の回答におけるキーワード使用頻度

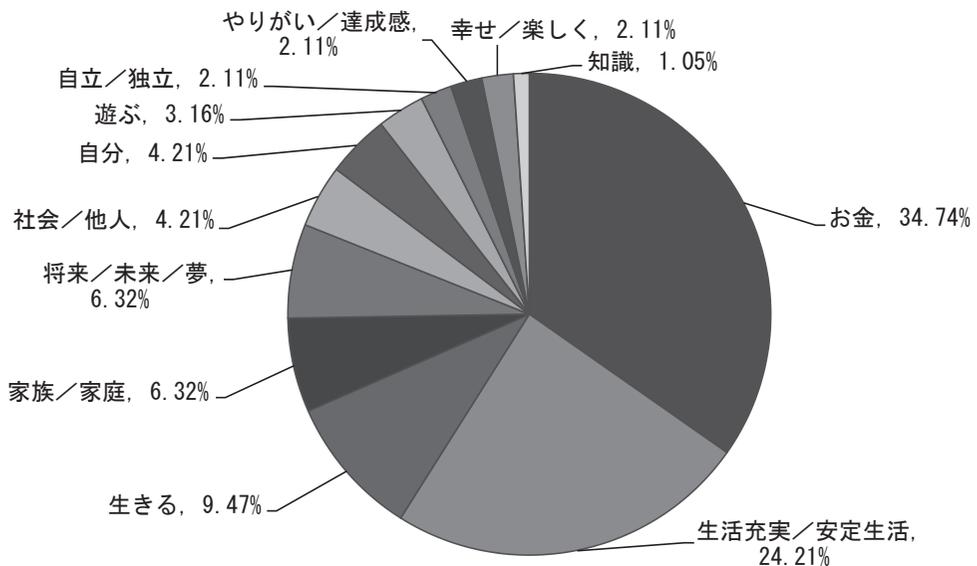


図1に示した上位3キーワードの割合は、「お金」(約34.74%)、「生活充実／安定生活」(約24.21%)、「生きる」(約9.47%)、であり、その合計は全体の7割弱と大部分を占めているが、これらの目的はいつの時代においても人間誰もが考える最低限の目的であり、一般的な傾向と捉えることができる。

また、設問1のキーワードを全体的にみると、①リスクの多い(不安定要素の多い)革新的な目的よりもリスクの少ない(安定要素の多い)保守的な目的、②誰か(他者)の幸せを目指す社会的な目的ではなく自分自身の幸せを目指す個人的な目的、③能力的向上を目指す目的よりも精神的安定を得る目的、が多い傾向にあることがうかがえる。

3.2. 調査結果2：「仕事をするうえでの信条，ポリシー」に対する意識の傾向

社会人としての信条やポリシーは働く個人にとって働き甲斐を得るための非常に重要な要因である。設問2では、設問1に関連して「あなたが仕事をするうえでの信条，ポリシーは何ですか」という質問を行った。回答結果は表3の通りである。

設問2の回答に対してキーワード分析を行った。分類方法は設問1と同様である。表4は設問2の回答に対するキーワード分析の結果、図2は表4のキーワードの使用頻度の割合をグラフ化したものである。なお、使用頻度1(使用した人数が1人の語彙)が多いため、それらのキーワードは「その他」にまとめて分類を行った。

キーワードで一番多かったのは「やることはやる／やるときはやる」「諦めない」(11人ずつ)、次いで「楽しむ」(8人)、3番目に「真地面に」「全力／それ以上」(4人ずつ)である。以下、「投げ出さない」「お客様第一」「失敗を繰り返さない／失敗は取り返す」「役に立つ／喜んでもらう」「約束・ルール・時間を守る」(3人ずつ)、「ポジティブ思考」「助け合い／協力」「挨拶をする」「努力」「コミュニケーション」「信念を持つ」「責任を持つ」「思いやり／信頼関係」「明るさ／人当たりの良さ」「対応力」(2人ずつ)、などの順となった。

図2からわかるように、上位3キーワードを除くと、キーワードの割合はほぼ同程度であり、100人いれば2、3人は同じ信条，ポリシーを持っていることがわかる。信条やポリシーは「強く信じていて、これだけは妥協できない」と思っている価値観や軸のようなものである。「100人いれば100通りの考え方がある」という表現があるが、そのような中で100人中2、3人が同じ信条，ポリシーを持っているということは、同様の価値観を持っている人物が近場にいる可能性が高いことを意味している。

一方で、仕事をする上での信条，ポリシーが「ない」という回答が2人(2.17%)いた。アルバイトをしている場合や学生生活の内に起業するような場合を除けば、本格的に社会に出て仕事をしている訳ではないため、このような回答が出ることも仕方ないことかもしれない。ただ、進路選択や就職活動のことを考えれば、大学生活の早い段階から「これだけは妥協できない」という自分の価値観・軸を持てるように意識しておくことが懸命であるといえる。

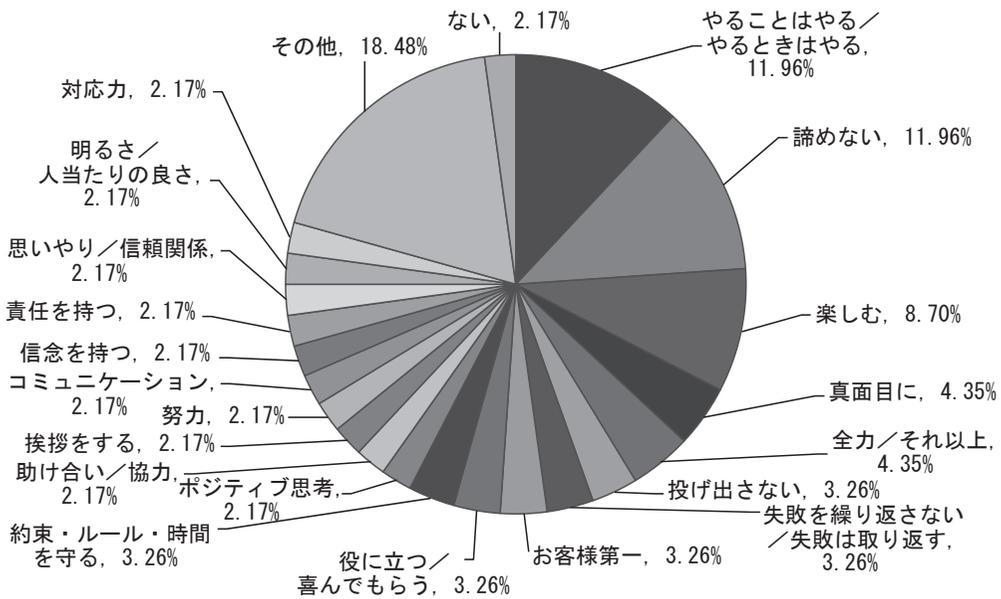
表3 設問2「あなたが仕事をするうえでの信条、ポリシーは何ですか」に対する回答

人との信頼関係を築くこと	やるときは、やる
できることはきちんとやること	対応の良さ
まじめに仕事をする	まじめに仕事をする
途中で投げ出さない	妥協しない
雑な仕事はしないこと	喜怒哀楽
諦めないでやりきる	お客様を大事にすること
メリハリをつけること	客をもてなすこと
他の人に喜んでもらえるようにすること	とりあえず頑張ること
曲がったことはしない	お客様を第一に考える
人当たり良く、要領良く	全ての仕事を頼まれるような人
めげない、努力すること	自分をまげない
楽しむこと	コミュニケーション
知らない人にも絶対にあいさつすること	周りに流されないこと
途中で投げ出さないこと	最後まで責任を持つこと
楽に	全てにけじめをつけ、妥協をしない(させない)
真面目に仕事をする	最後までやりきる
ポジティブ思考	楽しく稼ぐ
環境にすぐに適応すること	ない
全力のもう一步頑張る	明るく、笑顔で!
やりがいを感ずること	あいさつをしっかりとすること
助け合い、協力し合うこと	する時する、遊ぶ時は遊ぶ
金をもらう以上やることはやる	最低限のことをやる
謙譲の心	何事も誠心誠意で臨むこと
諦めないこと	人々の役に立つこと
他の人の欠点を補うこと	いろんな人と接すること
約束は守る	諦めない気持ち
与えられた以上の事をする	自分の仕事をしやすい環境を作る
同じミスはしない	早く短く丁寧に
最後までやること	いかに楽に働く
目上の言うことは聞く	まじめにとりくむ
ない	手を抜くときは抜く、抜かないときは抜かない
我慢すること	自分が楽しいと思える
楽しさを見い出すこと	適度な休憩
ルールを守ること	人生ゆるく
楽しく仕事がしたい(時間が早く進んでほしい)	やるときはやる
何事にもあきらめず楽しくすること	時間を守ること
気持ちよく仕事すること	思いやり
最後までやり遂げる	ミスを認め、二度としないようにすること
諦めないこと	なるべく自分だけでやること
羞恥心	人のために働く
上下関係をしっかり守ること	諦めないこと
面白おかしく	途中で投げ出さないこと
仕事と遊びのきりかえ	自分のやるべきことは責任を持ってやること
失敗しても、その分自分で取り返す	自分に出来るコトをすること
なるようになると思うこと	ほどよい自由

表4 設問2の回答におけるキーワード分類

キーワード分類	人数	キーワード分類	人数
やることはやる／やるときはやる	11	対応力	2
諦めない	11	曲がったことはしない	1
楽しむ	8	要領良く	1
真面目に	4	環境に適応する	1
全力／それ以上	4	仕事がしやすい環境づくり	1
投げ出さない	3	やりがいを感じる	1
お客様第一	3	謙虚さ	1
失敗を繰り返さない／失敗は取り返す	3	傾聴力	1
役に立つ／喜んでもらう	3	我慢	1
約束・ルール・時間を守る	3	羞恥心	1
ポジティブ思考	2	上下関係を守る	1
助け合い／協力	2	喜怒哀楽	1
挨拶をする	2	誠心誠意	1
努力	2	できることをする	1
コミュニケーション	2	ほどよい自由	1
信念を持つ	2	楽に働く	1
責任を持つ	2	人生ゆるく	1
思いやり／信頼関係	2	楽に	1
明るさ／人当たりの良さ	2	ない	2

図2 設問2の回答におけるキーワード使用頻度



3.3. 調査結果3：「最も信頼している人」に対する意識の傾向

設問3では、現在のキャリア観の形成過程（これまでの人生）に大きな影響を与えた人物の傾向を知るための質問として、「あなたが最も信頼している人は誰ですか」（複数回答あり）という質問を行った。回答結果は表5の通りである。

また、設問3の回答に対してキーワード分析を行った。分類方法は設問1と同様である。表6は設問3の回答に対するキーワード分析の結果、表7は表6のキーワードを更にまとめた分類結果、図3は表7のキーワードの使用頻度の割合をグラフ化したものである。

表6のキーワードで一番多かったのは「友達」（27人）、次いで「両親」（20人）、3番目に「家族」（17人）である。以下、「自分」（9人）、「父」（4人）、「先生」（3人）、「祖母」（2人）、「母」「姉」「先輩」「関わった人」（1人ずつ）、の順となった。なお、固有名詞については「その他」（4人）に分類した。

表7および図3からわかるように、学生たちが信頼している人の約半数は「家族」（48.39%）、次いで友達や先輩といった「仲間」が約3割（30.11%）であり、大分類上位2項目を合わせると8割近くを占めている。信頼性はこれまでの人生に対する関係性から得られた結果であること、信頼できる人物として3番目に多かったのが「自分」であることを鑑みると、「家族」や「仲間」は学生たちのこれまでの人生に大きく影響を与えてきたといえ、この2項目は今後も人生に大きく影響を与える可能性が大きいことを示唆している。

表5 設問3「あなたが最も信頼している人は誰ですか」に対する回答

友達	親	友人	家族
神	親	家族	自分自身
両親	おばあちゃん	親	自分
親	自分	家族	友達
おばあちゃん	友人	親	友達
学校の先生	親	親、先輩	友人
父	父	私自身	先生
両親	親	家族	昔からの友人
友人	友人	地元の友達	親友
親友	父親	地元の先輩	親
自分	仲間	親	いない
一部の友人	家族	個性的な人	友達と家族
ニーチェ	家族	友人	周りで関わった人たち
姉	いない	家族と友達	母親
自分	家族	友人	両親
家族	家族	はる	親
親	自分	家族	家族
親	家族	親	自分
友人	友達	親	自分自身
いない	家族	先生	両親や友人
家族	友人	友人	親友
友人	大事な友達	両親と坂本龍馬	
地元の友人	父	家族	

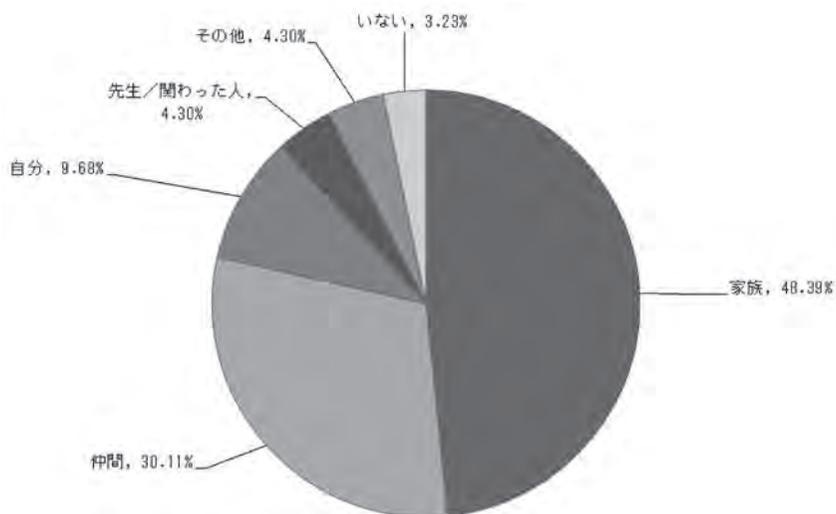
表6 設問3の回答におけるキーワード分類

キーワード分類	人数
友達	27
両親	20
家族	17
自分	9
父	4
先生	3
祖母	2
母	1
姉	1
先輩	1
関わった人	1
その他	4
いない	3

表7 表6を再分類してまとめた結果

大分類	人数
家族	45
仲間	28
自分	9
先生／関わった人	4
その他	4
いない	3

図3 設問3の回答におけるキーワード使用頻度（大分類）



3.4. 調査結果 4 : 「一番大切なもの」に対する意識の傾向

設問 4 では、キャリア観を形成する上で重要な要因のひとつとして考えられる欲求（物的欲求や空間的欲求など）の傾向を知るための質問として、「あなたの一番大切なものは何ですか」という質問を行った。回答結果は表 8 の通りである。

設問 4 の回答に対してキーワード分析を行った。分類方法は設問 1 と同様である。表 9 は設問 4 の回答に対するキーワード分析の結果、図 4 は表 9 のキーワードの使用頻度の割合をグラフ化したものである。

キーワードで一番多かったのは「友達」(25人)、次いで「家族」(14人)、3 番目に「時間」(8 人) である。以下、「自分」「命」「つながり」(7 人ずつ)、「恋人」「お金」「体」(4 人ずつ)、「今/現在」「周囲の人」(3 人ずつ)、「人生」(2 人)、「欲望」「心」(1 人ずつ) の順となった。また、信頼している人が「無い、わからない」という回答が 3 人いた。

この中で一番大切なものが人物（「自分」「その他」の分類を除く）に属する回答（「友達」「家族」「恋人」「周囲の人」）を合計すると半数以上の 46 人 (46.00%) という結果が得られた。一番大切なものに「つながり」と回答した割合が 7 人 (7.00%) いることから、人は一番大切なものを決める際、これまでの人生において培ってきた過去からのつながりにより影響を与えてくれた人物を選択することが多いことがうかがえる。

設問 3 における「最も信頼している人」と設問 4 における「一番大切なもの」の回答結

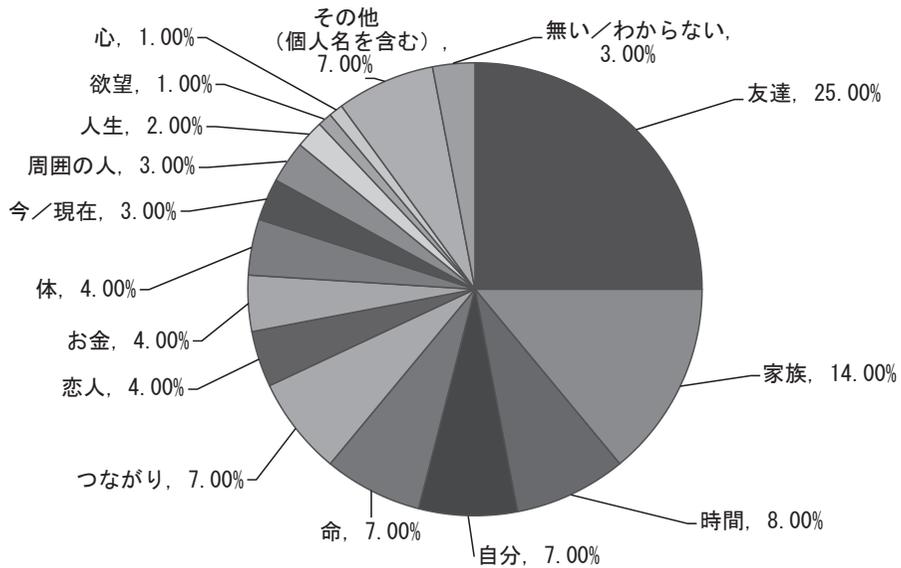
表 8 設問 4 「あなたの一番大切なものは何ですか」に対する回答

恩師から頂いた万年筆	友達	時間	自分の体
今ある人生	家族	家族	自分自身
家族	お金	周りの友達	彼女
家	今	大切な友達	仲間
時間	友人	家族	命
友達	写真	家族	友人
腕時計	お金	妹	家族、友達、お金
命	食べ物	家族	友達
ゲーム	友達	友達	友人
ねこ	欲望	時間	友達
今まで出会った人たち	心	楽しいと感じる時間	ない
命	彼女	自分	友達
ゲーム機	彼女と命	親	人とのつながり
友人関係	睡眠時間	私と関わっている人全て	自分
今	時間	時間	家族
私	健康	自分	家族
仲間	金	まわりの人	友達
友達	友達	命	自分
わからない	命	家族	生きること
健康	友達、家族	友達	時間
友人	現在	自分	友人
自分の命	出会った友達	家族と恋人	
お金	友達	自分の体	

表9 設問4の回答におけるキーワード分類

キーワード分類	人数
友達	25
家族	14
時間	8
自分	7
命	7
つながり	7
恋人	4
お金	4
体	4
今/現在	3
周囲の人	3
人生	2
欲望	1
心	1
その他(個人名を含む)	7
無い/わからない	3

図4 設問4の回答におけるキーワードの使用頻度



果から、「信頼している人物＝大切な人物＝影響を与えている人物」が、キャリア観の形成に大きく影響しているといえる。

3.5. 調査結果5：「将来の夢」に対する意識の傾向

設問5では、キャリア観を形成する上で筆者が一番重要であるとする「夢」について、夢を持っているのか、持っているのであればどのような夢を持っているのか、その夢は具体的なのか、もしくは抽象的なのか、その傾向を知るため、「あなたの夢は何ですか」という質問を行った。回答結果は表10の通りである。

この項目では、夢の内容が「公的な事柄（仕事）か、私的な事柄（私生活）か」に着目し、「公的な事柄（仕事）」を1、「私的な事柄（私生活）」を2とし、「不明」（決まっていない）に分類できるものを3に変換して分類を行った。その結果、「公的な事柄（仕事）」に分類できる回答をした人は35人（37.63%）、「私的な事柄（私生活）」に分類できる回答をした人は55人（59.15%）、「不明」に分類できる回答をした人は3人（3.23%）となった。この結果から、大学生の「将来の夢」に対するキャリア観は仕事重視よりも私生活重視の傾向が強いことがわかった。

また、「公的な事柄（仕事）」と回答した人のうち、将来の職業が「具体的に決まっているのか、まだ抽象的なのか」で細分類を行った結果、「具体的」な回答は25人（71.43%）、「抽象的」な回答は10人（28.57%）であった。夢が「公的な事柄（仕事）」の場合、71.43%の人が具体的な職業や仕事を念頭に入れて生活をしていることがわかる。一方で、これを全体数からみた場合、「公的な事柄（仕事）」が具体的に決定している人数は4人に1人程度（26.88%）に過ぎない。

4. まとめ

4.1. 大学生のキャリア観の傾向に関するまとめ

本稿では、大学生がどのようなキャリア観を持っており、そのキャリア観の形成にどのような事柄が影響を与えているのかを把握するため、「仕事をする目的」「仕事をするうえでの信条、ポリシー」「最も信頼している人」「一番大切なもの」「将来の夢」の5項目について調査を行い、その調査結果を基に、大学生のキャリア観の傾向について考察した。これらの調査項目に基づいた大学生のキャリア観の傾向をまとめたものが表11である。

中教審答申に記されている「自ら学び、自ら考える力」「課題探求能力」「主体的に進路を選択する能力・態度」の3つの力が自主的・能動的・主体的な力なのに対し、「仕事をする目的」の傾向は保守的・個人的・安定的であり、仕事そのものに対して内向的で受動的な傾向が強く、3つの力とは対照的である。

「仕事をするうえでの信条、ポリシー」の傾向、「最も信頼している人」の傾向、「一番大切なもの」の傾向を総合的にみると、ある程度の人たちが何かしらの信条、ポリシーを持っており、中でも自分中心というよりは他者への影響も考えた上での信条、ポリシーが多く、これまでの人生で長時間一緒に過ごしてきた人物の影響を受けている可能性が高いことが分かった。

また、仕事そのものに対する学生たちの内向的で受動的な姿勢は「将来の夢」の傾向に

表10 設問5「あなたの夢は何ですか」に対する回答と分類

分類	回答	分類	回答
1	教師	2	自分が楽しく生きる未来
	金融機関へ就職		老後を楽しく過ごすこと
	経営者		自分の家を建てること
	公認会計士		普通の生活をする事
	西武鉄道就職		自分の部屋のある家に住むこと
	公務員		世界一周旅行に行って色々な国を見ること
	海外アーティストと日本をつなげる仕事をする事		お金持ち
	放送作家		大富豪になること
	JR 東日本職員		何も困らない生活がしたい
	社長になること		夢を持つこと
	社長になること		のんびりと暮らす
	ペットショップの店員		大人になっても遊びたい
	職人		幸せな暮らし
	ゲームシナリオライター		結婚
	自分の店を持つこと		結婚する
	起業		結婚して大きな犬を飼うこと
	好きな事やって起業すること		平凡な人生
	税理士、会計士、経理士のどれか		幸せな家庭をもつこと
	経理の仕事に就くこと		まあまあな人生を送ること
	サッカー選手		馬
	仮面ライダー		幸せな家庭を築くこと
	父の店を継ぐこと		人の人生を決められる存在
	ボーカリスト		楽しく人生を全うすること
	地元でなりたい職に就く		好きな事に常に触れる事
	社長になる		戦争の無い世界
	資格を活かした仕事に就くこと		健康に生きる
	パソコンで仕事をする事		結婚
	普通の会社にはない楽しい仕事を作ること		お金持ちになること
	仕事をする事		ずっと笑顔でいること
	安定した仕事		全日本でベスト4に入る事
	自分がしていて充実する仕事をする事		ノーブランで世界旅行
	社会に役立つ		最後に笑うこと
	1, 2		将来就職をして普通に生活ができること
就職し、家庭を築き、普通の生活をする事		VIPになる	
結婚、安定収入、趣味でバドミントンをする事		やりたいことを見つける	
2	結婚	安定した生活	
	自分の家族を持つこと	マイホームを持つこと	
	宝くじを当てること	普通の家庭を持つこと	
	自由に生きていくこと	金持ち	
	名前の残る人物になること	幸せな人生を送ること	
	とにかくねたい	後悔しない人生を送ること	
	部活で関東学生に出ること	七段（遊び）とるコト	
	金持ち	無い	
	幸せな家庭を作ること	まだ見つかっていない	
	平凡な生活、趣味が出来る	夢を持つこと	
		3	

表11 大学生のキャリア観の傾向

項目	傾向
「仕事をする目的」	大きく3つの目的に分類できる ①リスクの少ない保守的な目的 ②自分自身の幸せを目指す個人的な目的 ③精神的安定を得る目的人数
「仕事をするうえでの信条、ポリシー」	ほとんどの人が何かしらの信条、ポリシーを持っている 相手を考えた信条、ポリシーが多い
「最も信頼している人」	家族や仲間を信頼している傾向が強い
「一番大切なもの」	友達や家族を一番大切にしている傾向が強い
「将来の夢」	仕事重視よりも私生活重視の傾向が強い 将来の職業を決定している割合は4人に1人程度

も直結しており、仕事よりも私生活重視の傾向にあること、将来の職業を意識している割合が25%程度しかいないことに如実に表れているといえる。

4.2. 今後の課題

筆者が担当する講義「情報処理」では、「キャリアをプランニングし、コンピュータで表現する」というテーマの下、ソフトウェアを使ってどのように自己のキャリアをプランニングし、どのように表現するかについて実践的に取り組ませ、最終的には将来の夢を意識し、夢に向かうことのできる格好良い大学生、格好良い大人を目指すことを主眼に置いている。今後は、このような性質の講義において行った受講前（今回の調査結果）と受講後の二度の調査から、キャリア観の傾向が受講前と受講後でどのように変化しているのかについて比較を試みたい。

参考文献

今尚之（1996）「自由記述文の分析に対するキーワード分類法の適用」『言語センター広報 Language Studies』第4号，小樽商科大学言語センター，pp81-90.
ネクストエンジン合同会社（2012）『千葉でカッコいい社会人になれる本』

〔抄 録〕

本稿では、2012年度秋学期の本学における筆者担当科目「情報処理」履修者を対象としたアンケート調査の結果を基にキーワード分析を行い、大学生のキャリア観の傾向について考察を行った。

キーワード分析の結果として、最初の項目「仕事に対する目的」では、全体的には内向的で受動的な傾向が強かった。2つ目の項目「仕事をするうえでの信条、ポリシー」では、アルバイト等の経験から97.83%の学生が何かしらの信条、ポリシーを持っていることが分かった。3つ目の項目「最も信頼している人」では、これまでの人生において「家族」や「仲間」といった長時間一緒に過ごしてきた人物の影響を受けている可能性が高いことが分かった。4つ目の項目「一番大切なもの」では、これまでの人生において培ってきた過去からのつながりにより影響を与えてくれた人物を選択することが多いことが分かった。最後の項目「あなたの夢」では、私生活重視の傾向が強く、将来の職業を意識している割合が4人に1人程度（25%）に過ぎないことが分かった。